

ご近所にこんなにステキな場所がありますよ(▽)/
行ってみませんか...

認知症カフェ「カフェすみれ」
開催場所：グランモールさくら及川（及川793）
連絡先：090-7416-7534（岡野）



認知症状のある家族を介護している人と、看取りの経験のある人やボランティアなどからなる「厚木市認知症を抱える家族すみれ会」が、気楽にお話ができる場として、令和元年6月～3か月ごとに特別養護老人ホームの場所を借りてカフェを開催しています。お茶を飲みながら昔の物に触れたり歌を歌ったり…。目をキラキラさせながらお話が弾んだり、お抹茶もいただけます。（^^）この日は、小さい子も参加していたので、皆さんとてもやさしい顔で参加されていました。

障がい者交流スペース「四葉亭」
開催場所：あつぎ市民交流プラザ
（中町2丁目12-15）
連絡先：厚木市障がい者基幹相談支援センター
（046-225-2904）



障がい者同士の交流会の開催は月2回（第1土曜日・第4日曜日）出入り自由です。ゲームやお茶を楽しみながら交流できます。障がいのある当事者が話を聞く、当事者相談も同時に行っています。交流スペースでは、のんびりとした中でお菓子を食ったり、お茶を飲んだり…。気になった話に加わったり、雑誌、マンガや新聞を読んだり…。テレビでは、懐かしのお笑いDVDが流れている空間。気を使わずに自分のしたいことができる場所です。私も麻雀に参加させていただき、楽しい時間を過ごしました。（・▽・）ヤヤ

たくさんの認知症サポーター誕生!!

小鮎中学校2年生99名の皆さんが認知症サポーター養成講座を受講しました。地域で支え合う…私たちにできること。小さなことやちょっとした気づきがい社会の力になっていくことを学んでいました。地域福祉推進委員の4名も中学校の授業に参加されており、地域のつながりや温かさを感じる時間でした。「驚かせない」「急がせない」「自尊心（プライド）を傷つけない」そして認知症がある人は「困った人」ではなく「困っている人」。認知症のある人にどう手を差し伸べるか…自分にできることを真剣に考え、一人一人自分らしい答えを見出していました!!取材に快く対応してくれた各学年委員の皆さん（武井さん・米山さん・佐々木さん・一條さん・野田さん・服部さん）、色々な気づきを教えてくれてありがとう!ステキな皆さんに出会えて元気をもらいました。

Q：これからやっていきたいことは?

A：地域のだれにでも挨拶を心がけていたが、より積極的にしていきたい。（野田さん）

A：いつでも地域交流を大事にしていきたい。（服部さん）



野田さん

服部さん

番外編

地域包括ケア TIMES

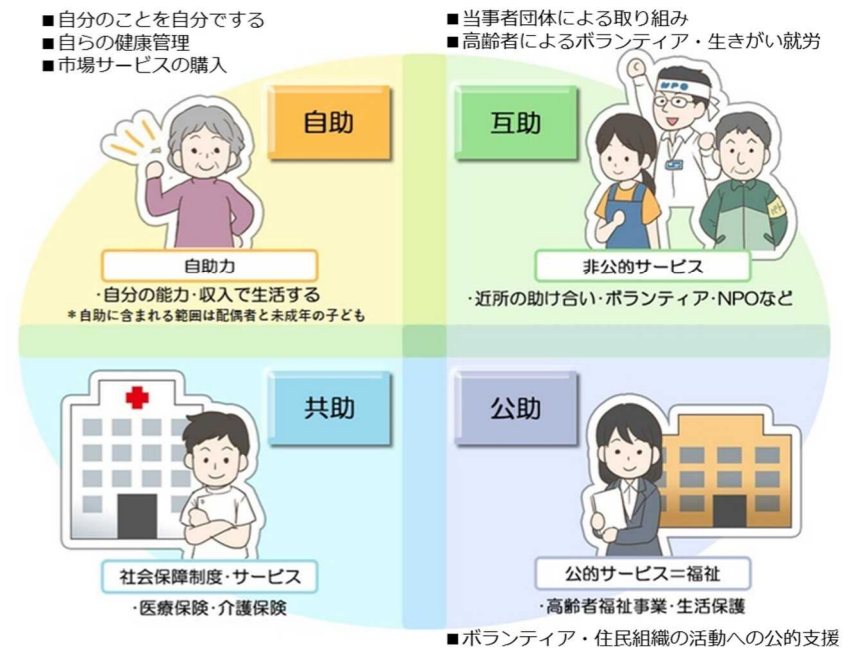
春号

厚木市が目指す… 地域包括ケア社会って?

誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを
人生の最期まで続けることができるまち!

自助・互助
共助・公助
このバランスが
大事!!

行政が…企業が…地域住民が…
誰かが頑張れば“支え合う地域”
ができあがるということではなく…
みんなで協力して支えつな
がればビクともしない“支え合
う地域”ができるでしょう!



発行 厚木市 福祉部 福祉総務課

地域包括ケア推進担当

住所 〒243-8511 厚木市中町3-17-17

電話 046-225-2047 / FAX 046-221-2205

メール 1900-08@city.atsugi.kanagawa.jp

URL <https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/>

出前講座!!

地域包括ケア推進担当では…『地域包括ケア社会について』『最期まで自分らしく過ごすには…』『人生100年時代…私たちができること』など、皆さんの所に出向いてお話をさせていただいております。

ちょっとお話聞いてみようか…と思い立ったらご相談ください(^^)

お知らせ



厚木北地区生活支援協議体



本厚木駅の北側に位置する「厚木北地区」は、市内でも利便性が高く、人口が密集している地域です。都市型の地域ならではの問題として、近所づき合いが難しい場合があります。その一方で、「生活に支障が出るのでは？」と気に掛かる住民も少なくありません。住民が安心して暮らすことができる街にするため、地域のさまざまな団体が集まって「アイデアを出し合う」話し合いを続けています。今年に入ってから民生委員、自治会のご協力により、一部の75歳以上の方へ困りごとをうかがうアンケートを実施しました。これからはアンケートの集計結果を参考に、地域づくりのアイデアを出し合う予定です。

厚木南地区たすけ合い・支え合い地域づくり協議会

厚木南地区では、協議会の前身である地域の話し合いから誕生したみんなの食堂“よつば”があります。この地区には、以前から民間や地域の方が運営している集いの場が多くあります。また、新たな居場所もできています。そこで…今、協議会では初心に戻り、この地域でどんな居場所がどこにあるのかを協議会のメンバーで共有しているところです。本厚木駅に近いためマンションやアパートが多く、支え合う地域づくりをどう進めていこうか…と手探りで話し合いを進めています。“たすけ合い・支え合いのできる厚木南”であるために私たち住民は、何をどうしていけばいいのか、これからも考えていきたいと思えます。



第2層協議体…こんなことしてるんだ!!

第2弾!

第2層協議体は、地域での生活を支援するため、さまざまな立場の方が定期的に集まり、地域の活動を知ることや、「あったらいいね!」や「自分たちのできること」を話し合っています。地域包括支援センターの地区ごとで活動しています。



おぎの生活支援協議会

いち早く発足させ、会議を開いているおぎの生活支援協議会!! 支える側・支えられる側という線引きをせず、地域みんなが自分らしい生活をするためにどうコミュニティを作っていけばいいのか…議論したり視察に行ったり…。勉強しよう!と研修会に参加したり…。色々なことに取り組んでできています。地域包括支援センターの跡地…もったいないから何か活用できないか。今後、外出が困難な方が増えてくるのでは…ということでコミュニティ交通実証実験の実施に関わったり…。グループワークで話し合いを重ね、居場所やみんなの集まる場の開催を計画したりと少しずつ形にできています。みんなの力で“荻野に住んで良かった”と思える地域づくりに取り組んでいます。



玉川・森の里見守り支えあい会議



玉川・森の里見守り支えあい会議は玉川地区と森の里地区の2つの地域からなる協議体です。地域特性がかなり異なるため、当初は一体的に進めていくためにはどうすればよいのかとても悩みましたが、地域特性が異なるのであればその違いを活かし、互いに補完し合う関係を基礎として、情報共有と地域課題を話し合う場にしよう!!との結論に至りました。今年度からメンバーに協力者も増え、更にパワーアップ!! 今後は、チラシを配布するなど支え合う地域の風土づくりに力を注ぎます。地域みんなと育んでいきましょう。



南毛利地区支え合い体制づくり第2層協議体

南毛利地区は人口4万人の大きな地区であり、南毛利地区内の地域ごとにも状況や課題が異なります。第2層協議体で話し合った結果、地区内6ブロック(愛名・毛利台・戸室・恩名・温水・長谷)の部会を設置し、ブロックごとに課題を特定し、その課題解決に向けた話し合いを進めています。

【毛利台】

写真の場面は全員で出した課題を、グループに分かれ検討している場面です。皆さん、和気あいあいと、活発に意見を出し合い取り組まれています。



【戸室】

地域住民の皆さんからいただいたアンケート結果をもとに、課題抽出を行いました。取組みについてメンバー全員で話し合い、できることから活動へつなげていこうと検討を積み重ねています。

